

編集後記

今年は、5月8日、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症に移行し、コロナ禍前に戻った部分とそのままの部分とが混在した日々でしたが、僕にとっての一番のイベントは、コロナ禍が収まるまではと延期してきた高校と大学の同期同窓会を11月3日、4日に連日で開催したことです。高校の同窓会では、定年退職後のセカンドライフを楽しそうに語る同級生たちに会いワーク・ライフ・バランスを見直そうと思いましたし、大学の同窓会では吉田浩己鹿児島大名譽教授から「60代は気力、体力の衰えは心配なく、新たな挑戦をするのに遅くはないので、ぜひ、元気で新しいことにもチャレンジしてほしい」との祝辞を頂き、新たにチャレンジするものを模索しています。

「一年を振り返って」は、池田耕治副会長をはじめとする各医会会長から、年末挨拶として今年の活動と来年の抱負をご投稿頂きました。お忙しい中、投稿してくださった皆さんに感謝致します。内科医会の有村公良先生が書いておられるように、講演会は完全Webからハイブリッドに移行し、最近では完全リアル開催も始まりました。Web参加の良い点は、移動時間を気にすることなく、自分の空間でゆったりと聴講可能にもなります。一方、現地参加すると、講演に対する講師の熱気を感じられますし、いろいろな先生と直接お会いして情報交換もできます。皆さんはどちらを選択していらっしゃるでしょうか？僕は現地参加が増えていきます。

医療トピックスは、医師会病院薬剤部の青木理歩先生から「活性生菌製剤の違いについて」と題した腸内環境を改善する薬剤の紹介でした。7月に大阪で開催された日本小児皮膚科学会学術大会のテーマは「小児における腸皮膚相関」で、腸内フローラが乱れて悪玉菌が増えると便秘になり、子供ではアレルギーや学習障害、大人ではパーキンソン病や認知症の誘因となることを知

りました。善玉菌を増やすには、発酵食品の摂取が良いそうで、会頭の関西医科大学小児科の金子一成教授は、「子供には和食（ご飯、味噌汁、納豆、糠漬け）の摂取をお勧めしたい」と会頭講演で述べておられました。我が初孫が美味しそうにヨーグルトや納豆ご飯を食べる姿に便秘と無縁に成長しそうに安堵しています。

学術は、医師会病院産婦人科から「術前に卵管留血腫を疑ったが、卵管明細胞境界悪性腫瘍の診断に至った一例」と題した極めて珍しい卵巣がんの報告ですので、ご一読ください。

随筆・その他は、栗博志先生から「音楽の散歩道その6－懐かしい女性歌達－」、小田原良治先生から「制度創設時に立ち返り医療事故の定義を再確認しよう(2)」と2編の連載投稿がありました。また、リレー随筆は、鹿児島市立病院の宿里正顕先生から「探訪！九州外～行ってみたいと思いませんか～」と題した九州を飛び出での旅行記でした。印象深い場所として紹介された広島県大久野島（毒ガス島）は、戦前、陸軍が毒ガスの製造、貯蔵をしていた島で実験用に兎も飼育されていました。しかし現在、島で見られる兎はその時の兎の子孫ではないようです。

鹿市医郷壇の兼題は、師走に相応しい「気忙し（きぜわし）」です。祖母が教えてくれたのですが、現在の医療保険制度が始まる前の開業医は、診療費の支払いを1年に1度、12月にしてもらっていたので、集金をするためのスタッフを雇ったり、支払いに来る人の為のおもてなしもしたりと気忙しい日々だったそうです。

師走は忘年会の季節、カロリー摂取過多でメタボにならないように、ヒポクラテスの「歩くことは人間にとり最良の薬」を糧に積極的に歩くように心掛けましょう。

（編集委員 島田 辰彦）